

Extension Course at Shimizu Sakuragaoka High School : A Good Practice of University-High School Collaboration Activity

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水谷, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027540

授業エクステンションとしての高大連携活動 ～清水桜が丘高校でのグループワーク入門講座～

水谷 洋一（静岡大学地域創造教育センター・地域創造学環）

はじめに

本稿は、地域創造学環1年生向け授業「ファシリテーション入門」のエクステンションとして、2019年9月12日に静岡市立清水桜が丘高校で実施した「グループワーク入門」講座の実施報告である。

この講座は、「ファシリテーション入門」担当教員の小野寺郷子氏（非常勤講師）がメイン・ファシリテータ、地域創造学環の学生9がアシスタント・ファシリテータ、筆者が運営管理者となり実施したものであるが、本報告は筆者からさせていただく。

1. 地域創造学環1年生向け授業「ファシリテーション入門」の概要とねらい

「ファシリテーション入門」は、地域創造学環の1年生が前期に受講するために用意された授業で、選択必修科目ではあるが、毎年度1年生全員（約50人）が受講している（他学部の学生も受講している場合がある）。

この授業の目標は、受講学生がグループワーク、ワークショップ、合意形成型会議等の場でのファシリテーションの効果と必要性、それがもたらす可能性を理解し、ファシリテーションのための基礎的な知識とスキルを身に付けることである。受講後は身に付けた知識・スキルを現実の実践的な場面、例えば地域創造学環学生が1年生後期から3年生後期にかけて実施する静岡県内各地での「フィールドワーク」等で活用できるようになることが期待されている。

担当教員（非常勤講師）は、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会副代表の小野寺郷子氏であり、筆者は補助教員として授業準備や進行補助等を行っている。

表1は授業のシラバス（抜粋）であるが、この授業の最大の特徴は、授業自体がファシリテーションの手法を用いて実施され（担当教員はファシリテータでもある）、毎回の授業が1つのグループワークないしはワークショップであることである。受講学生がファシリテーションの効果、必要性、可能性を体験的に理解することを意図した授業デザインとなっている。

なお、受講学生は毎回の授業の最後に、授業での気づきや感想、要望・質問等をコメントペーパー（A5サイズ）に書いて提出することになっている。約5分間でほとんどの受講学生が集中してコメントペーパーを最後の行まで書いているのが普通の光景となっている。

表1 「ファシリテーション入門」授業のシラバス（抜粋）

授業科目名	ファシリテーション入門 (Basic Facilitation Skills)																				
担当教員名	小野寺 郷子 (ONODERA Satoko)		所属等	非常勤講師																	
			分担教員名	水谷 洋一																	
クラス	学環	学期	前期	必修選択区分	選必																
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4																
キーワード	ファシリテーションスキル、個人の意識や可能性を高める、集団による相互作用を促進																				
授業の目標	<p>①企業や学校、地域コミュニティなどにおける、集団による学習・問題解決・アイデア創造などの知的創造活動を支援するファシリテーションの可能性を理解し、ベースとなる基礎知識（心構えを含む）を習得する。</p> <p>②ファシリテーションの基礎技術、場のデザインのスキル、対人関係のスキル、構造化のスキル、合意形成のスキルを総合的に身に付ける。</p> <p>③ワークショップ等の機会に自らがファシリテータを担える技量を習得する、ないしは、多様な場面で習得した技術を活用できるようになる。</p>																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>①[入門1] ファシリテーションとは</td> <td>⑨[実践3] 実践</td> </tr> <tr> <td>②[入門2] ファシリテータの基本的考え方</td> <td>⑩[実践4] 振り返り</td> </tr> <tr> <td>③[初級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)</td> <td>⑪コミュニケーションスキル</td> </tr> <tr> <td>④[初級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)</td> <td>⑫ファシリテーションを使った講師の極意</td> </tr> <tr> <td>⑤[中級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)</td> <td>⑬会議力検定に挑戦してみよう。</td> </tr> <tr> <td>⑥[中級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)</td> <td>⑭[応用1] 事業展開の極意</td> </tr> <tr> <td>⑦[実践1] 会議のデザイン</td> <td>⑮[応用2] 事業展開の極意</td> </tr> <tr> <td>⑧[実践2] プログラム作り</td> <td>⑯[まとめ] 確認テスト&会議開催実践編</td> </tr> </table>					①[入門1] ファシリテーションとは	⑨[実践3] 実践	②[入門2] ファシリテータの基本的考え方	⑩[実践4] 振り返り	③[初級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)	⑪コミュニケーションスキル	④[初級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)	⑫ファシリテーションを使った講師の極意	⑤[中級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)	⑬会議力検定に挑戦してみよう。	⑥[中級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)	⑭[応用1] 事業展開の極意	⑦[実践1] 会議のデザイン	⑮[応用2] 事業展開の極意	⑧[実践2] プログラム作り	⑯[まとめ] 確認テスト&会議開催実践編
①[入門1] ファシリテーションとは	⑨[実践3] 実践																				
②[入門2] ファシリテータの基本的考え方	⑩[実践4] 振り返り																				
③[初級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)	⑪コミュニケーションスキル																				
④[初級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)	⑫ファシリテーションを使った講師の極意																				
⑤[中級1] 会議ファシリテーションスキル(前半)	⑬会議力検定に挑戦してみよう。																				
⑥[中級2] 会議ファシリテーションスキル(後半)	⑭[応用1] 事業展開の極意																				
⑦[実践1] 会議のデザイン	⑮[応用2] 事業展開の極意																				
⑧[実践2] プログラム作り	⑯[まとめ] 確認テスト&会議開催実践編																				
テキスト	なし。毎回授業の際、資料を配布。																				
参考書	釘山健一（会議ファシリテーター普及協会）『会議ファシリテーションの基本がイチから身に付く本（第9版）』，すばる舎，2014年																				
予習・復習	授業中に適宜課題を提示する。																				
成績評価	各回授業の最後に行う小レポート（コメントペーパー）および最終回に実施する確認テストにより成績を評価する。																				
担当教員から	受講生は全員、名札を着用してもらいます。 毎回の授業の前に2名程度、講義室の準備を手伝ってもらいます。																				



写真1 ファシリテーション入門の授業の様相

2. 清水桜が丘高校でのグループワーク入門講座の開催

2.1. 講座開催までの経緯

2018年11月に、当時静岡市立清水桜が丘高校の校長であった渡邊紀之氏（現・静岡県立静岡城北高校校長）から筆者に、2019年度の2学期に普通科1年生において実施する「総合的な学習」の授業（2019年度のテーマは「サッカー学」（全5回）の初回に、グループワークのやり方やそのファシリテートの方法の基礎を学べるような講座を実施してほしい旨、依頼があった。渡邊校長は本学地域創造学環で「ファシリテーション入門」の授業が行われていることを以前からご存じであったことから、筆者に依頼があったものである。

筆者は、「ファシリテーション入門」の授業のエクステンションという位置づけで、地域創造学環における高大連携活動の一環として今回の依頼をお引き受けするのが適切と考え、小野寺講師に協力をお願いした。

2.2. 講座をめぐる諸条件

2019年度に入り、同校の石原一義副校長、教務主任の松永恭介教諭、曲田雄三教諭と筆者とで何度か打ち合わせを行いながら講座の準備を進めていく中で、講座の開催形式についての同校側の要望が明らかになった。

(1) 普通科1年生（4クラス・164人）だけでなく、商業科1年生（3クラス・123人）も受講させたい。

それぞれ1度で講座を実施してほしい（クラスごとの実施ではない）。

(2) 164人・123人を収容できる教室がないため、会場は体育館としてほしい（机・椅子はない）。

(3) 約3時間で実施してほしい（午前：8：35～11：25 普通科対象，午後：12：10～15：00 商業科対象）

これらは高校で講座を開催する際にはありうる要望ではあるが、通常この種の講座をこのような条件下で開催することはない。それゆえ、今回の講座の設計においては、これらの条件とそれから派生する諸問題への対応がポイントとなった。

最大の問題は100人を超える生徒を対象にどうやって講座を実施するかであった。これについての検討の中ではいくつかの方策が考えられたが、今回の講座を「ファシリテーション入門」の授業のエクステンションと位置付けるのであれば、その受講学生にアシスタントをしてもらうというのが最もふさわしいとの結論になった。受講学生の中には、授業で学んだファシリテーションの知識とスキルを現実の様々な場で実践的に活用したいと希望する学生がいたため（上記のコメントペーパーにより把握できる）、数

人に本件につき相談してみたところ、みな快く引き受けてくれた。結果的に、地域創造学環の学生9人（1年学生5人、2年学生2人、3年学生2人、うち2人は清水桜が丘高校卒業生）がアシスタントを引き受けてくれ、このことにより最大の問題に対応できる目途が立った。

2.3. 講座のねらい

清水桜が丘高校はアクティブラーニング型のグループでの学びを授業の随所に取り入れていく方針であり、それが普通科だけでなく、商業科の生徒にも講座を受講させたいとする理由であった。これを受けて小野寺講師と筆者は検討を重ね、時間的に限られた中でも3年間にわたるグループワークでの学びの基礎となる知識やスキルに触れてもらうため、今回の講座の中で生徒に体験してもらいたい要素を下記のように定めた。

- ①自分を表現すること（自己表現）
- ②書き出すこと（文字化）
- ③人の話をよく聴くこと（相互尊重）
- ④お互いの可能性を引き出しあうこと（可能性）
- ⑤お互いに影響を及ぼし・受け取ること（相互作用）
- ⑥自分で考え動くこと（主体性）
- ⑦チームとしての一体感を醸成すること
- ⑧上記の要素を「楽しく」体験すること（イメージ）

この講座で上記の各要素に触れてもらうことによって、同校の生徒にも教員にも、その後の「総合的な学習」での学びをより活発で充実したものにするヒントやきっかけをつかんでいただくことをねらいとした。これに高校側から賛同をいただいたため、具体的に講座の設計に入った。

なお、上記とは別に、小野寺講師と筆者、学生アシスタントのねらいとして、「学生がファシリテーションの知識とスキルを現実の場で実践に活用することにより、それらを自らの力として定着させること」を設定した。

2.4. 講座開催に向けての準備

◇生徒のグループ分け

- ・クラスごとに原則6人からなるグループをつくる
- ・グループ編成においては、男女、部活、友人などができるだけ同質にならないように配慮。
- ・グループ編成は、事前にクラス担当教員が行い、生徒に告知しておく。

◇会場レイアウト（図1参照）

◇各グループへの配置物

- ・アイスブレイク（オリンピック旗の色塗り）のシート

（A3・1枚）

- ・お宝シート（A4・人数分）
- ・「ワークショップのやり方」のシート（A4・人数分）
- ・コメントペーパー（A5・人数分）
- ・A3白紙（3枚）とA4白紙（6枚）
- ・模造紙1枚
- ・色マジックセット：各グループに1セット
- ・カラー付箋（2色，それぞれ50枚）
- ・ボールペン（黒1本，赤1本）※生徒持参

2.5. 講座の進行表と投影スライド

上記の各要素を講座の中で生徒に体験してもらうため、小野寺講師と筆者が何回か打ち合わせを行い、「ファシリテーション入門」の授業の中からいくつかのコンテンツをピックアップし、それに修正を繰り返しながら、講座の内容を表2のようにデザインした。

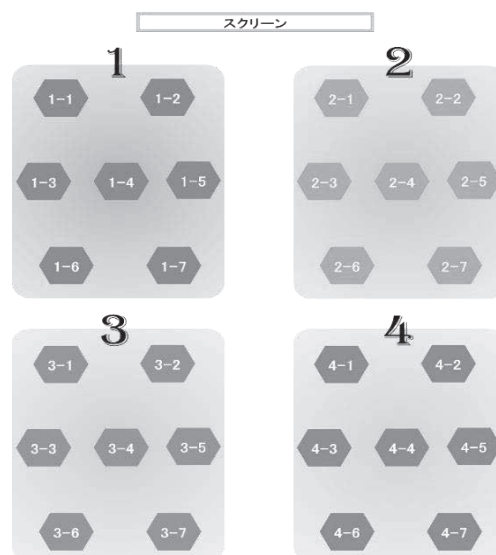


図1 会場（体育館）のレイアウト

2.6. 各スタッフの役割分担

○メイン・ファシリテータ：小野寺郷子氏

会場の前方中央で上記進行表に沿って講座全体を進行。各パートでグループワークを進めるための基本的知識とスキルを解説。アシスタント・ファシリテータへの指示。

○アシスタント・ファシリテータ：地域創造学環学生9人

2・3人でチームになり、配置場所のクラスにおけるファシリテータを務める。担当クラス内の各グループにおけるワークがメイン・ファシリテータの指示に従って正しく円滑に進行できるよう、生徒に働きかけをする。100人を超える講座を進行するために特に重要な役割。

○運営管理者：水谷洋一

高校側、メイン・ファシリテータ、アシスタント・ファシリテータとの連絡調整、スケジュール管理、会場設営・資料準備等に責任を持つ。講座中は時間管理を行うとともに、臨機応変にメイン・ファシリテータとアシスタント・ファシリテータを補助。

表2 講座「グループワーク入門」進行表(抜粋) 2019年9月12日

時刻	時間	項目	内容	投影スライド等																																													
8:25		生徒入場	①クラス毎に位置を確認して座ってもらう ②座り終わったら、スタッフは全員スクリーンの前に立つ																																														
8:35	10	★開会宣言 ★講師&学生自己紹介 ★クラス委員がクラスの紹介	自己紹介後、座り方を変更																																														
8:45	15	★アイスブレイク オリンピック旗の色塗り	ウォーミングアップ まずは、グループの力を合わせる練習です。 みんなでクイズに挑戦！ 早く、きれいに仕上げよう。	オリンピック五輪を完成させて下さい 																																													
9:00	5	★グループリーダー決めじゃんけん		グループのリーダー決めじゃんけん (1) 全員立ち、グループでじゃんけんします。 (2) 負け入人は降ります。 (3) 最後まで残った人がリーダーです。 (4) リーダーが決まったら、グループ委員に番号を付けます。 リーダーは1番です。あとはリーダーが決めて下さい。																																													
9:10	10	■[解説]コミュニケーションとは ①自分 ②相手 ③意味(情報)や感情のやり取り		最初に コミュニケーションとは 																																													
9:20	10	★「私のお宝シート」を作ろう：得意なコト、好きなコト、関心のあるコト、好きなモノ、好きな人、好きな場所 5分←たくさん書いた人確認	まずは自分！ お宝シートをつくろう 自分の5分間、できるだけたくさんシートに書き出してください。 好きな事、場所、人、なんでもOK 得意な事、関心のある事、興味のある事 どれもいい。どんどん書こう！ 書く方自由！小さなことでも大きなことでも	私のお宝シート 得意なこと、好きなこと、関心のあること、好きなモノ、好きな人、好きな場所 記入 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>20</td><td>30</td></tr> <tr><td>2</td><td>30</td><td>35</td></tr> <tr><td>3</td><td>35</td><td>40</td></tr> <tr><td>4</td><td>40</td><td>45</td></tr> <tr><td>5</td><td>45</td><td>50</td></tr> <tr><td>6</td><td>50</td><td>55</td></tr> <tr><td>7</td><td>55</td><td>60</td></tr> <tr><td>8</td><td>60</td><td>65</td></tr> <tr><td>9</td><td>65</td><td>70</td></tr> <tr><td>10</td><td>70</td><td>75</td></tr> <tr><td>11</td><td>75</td><td>80</td></tr> <tr><td>12</td><td>80</td><td>85</td></tr> <tr><td>13</td><td>85</td><td>90</td></tr> <tr><td>14</td><td>90</td><td>95</td></tr> <tr><td>15</td><td>95</td><td>100</td></tr> </table>	1	20	30	2	30	35	3	35	40	4	40	45	5	45	50	6	50	55	7	55	60	8	60	65	9	65	70	10	70	75	11	75	80	12	80	85	13	85	90	14	90	95	15	95	100
1	20	30																																															
2	30	35																																															
3	35	40																																															
4	40	45																																															
5	45	50																																															
6	50	55																																															
7	55	60																																															
8	60	65																																															
9	65	70																																															
10	70	75																																															
11	75	80																																															
12	80	85																																															
13	85	90																																															
14	90	95																																															
15	95	100																																															
9:30	20	★究極の自己紹介	グループで回し、興味のある事柄に印をつける	次は相手！(究極の自己紹介！) (1) お宝シートを左隣の人に渡す (2) お宝シートの項目で、もっと話を聞いてみたいコト、自分も興味があるコトなどに印をつける。 3つ以上、網掛けの所に「正」 (3) 印をついたら、また右隣の人に向す。 自分のお宝シートが返って来るまで続ける。 (4) お宝シートが返ってきたら、印のついた番号で話せることを要請。																																													
9:50	10	休憩																																															
10:00	5	■付箋を使った話し合い ・みんなが発言できる ・書く会議の大切さ	意見を言うのが苦手な人たち含めて みんなの話し合いの場 付箋を使ったやりかたがある！ 	ワークショップのやり方 																																													
10:05	10	■ワークショップのやり方	説明のみ：授業後にシート(左記)を配布																																														

<p>10:15</p>	<p>10</p>	<p>★グループの興味関心をまとめよう</p> 	<p>①付箋書き出し（お宝シートに印のついたものを書き出す。同じ項目は付箋の上にもその数を入れる）：3分 ②グループ分けしてそれぞれに見出しを付けて整理：5分</p>	<p>グループメンバーの興味関心をまとめよう</p> <p>(1) 印をつけてもらった項目をすべて書き出す。 印の数を数えておく ⇒標準紙に貼り出す⇒グループ化する</p> <p>(2) 数が多かった項目について詳しく質問する。 (3) 聞いた答えを違う色の付箋に記入して、笑顔を添える。</p> <p>できるだけ、たくさん、詳しく、みんなの興味関心のある内容を付箋に書く</p>
<p>10:25</p>	<p>10</p>	<p>★今後の「総合的な学習」につなげるために</p>	<p>①「サッカー」とリンクしたら、斬新で面白いなどと思うことを選んで、付箋のグループに印をつける。 ②A3の紙に書く。 ③発表係を決める ④となりのグループに発表！</p>	<p>今後の「総合的な学習」につなげるために</p> <p>(1)「総合的な学習」のテーマである「サッカー」とリンクしたら、斬新で面白いなど思うことを選んで、付箋のグループに印をつける。 <i>できるか、できないかは考えなし!</i> (2) A3の紙に書く。(書き方は自由、文字でも絵でもいい) (3) 発表係を決める (4) クラス内で発表！(2つに分ける)</p> 
<p>10:35</p>	<p>5</p>	<p>★パズルワーク① グループ内で力を合わせてみんなである画像を覚えて、それ復元しよう</p> <p>説明⇒作戦会議⇒ワーク</p>	<p>パズルワーク：チーム力検定</p> <p>今から絵を20秒見せます。正確に見えて、その絵をチーム力で復元してください。その絵は以下のように分割されています。みんなで完璧に復元できるように、まずは3分間、作戦を考えてください。</p> 	
<p>10:40</p>	<p>25</p>	<p>★パズルワーク② 全グループ・会場全員で力を合わせることに挑戦 みんなである画像を覚えて、それ復元しよう</p> <p>最後は全員で一枚の絵に挑戦!</p> <p>各クラスで持ち場を決め(絵は7分割です)。次にクラス内のグループで分担や役割を決めて、完璧に再現できるように作戦を立ててください。 ★作戦タイムは3分。 ★今回絵を見せる時間は1分。</p> 	<p>①説明：2分 ②全グループで作戦タイム：3分 ③見る時間：1分（メモ×） ④絵を復元する時間：8分 ⑤全部の模造紙を真ん中に集めて学生アシスタントによる確認</p>	
<p>11:05</p>	<p>10</p>	<p>★振り返り 「なぜ楽しく語り合うことが大切なのか」</p>	<p>①学生アシスタントによる進行で、グループで話し合う ②コメントペーパーに記入（講座の感想も）</p>	<p>なぜ、楽しく語り合うことが大切なのか？</p> <p>最後に 理由を考えてみよう!</p> <p>今日の感想とともに思いつくことをコメントペーパーに書き出してみてください。</p> 
<p>11:15</p>	<p>10</p>	<p>★閉会 ★講師まとめ ★学生アシスタントからのメッセージ</p>		<p>清水桜が丘高校 グループワーク入門講座</p> <p>（一日）会場：フナリテーター・聴覚覚悟 小高専講師 清水桜が丘高校 地域創造学課 学生有志</p> 



写真2 清水桜が丘高校における「グループワーク入門」講座の様相

2.7. 講座の成果

清水桜が丘高校の生徒たちの集中力と教員の方々の行き届いたサポートにより、講座はほぼ当初のプラン通りに実施できた。それにより講座のねらいの一つである「グループワークを進めるための基本的知識とスキルに関わる要素に触れてもらう体験」は達成できたのではないかと考える。コメントペーパーに書かれていた生徒たちの感想の一部を下記に紹介したい。

- ・自分は、話をすることが苦手であったけれども、今回は苦手意識をあまり感じることなく参加することができた。
- ・自分の意見が否定されないことで、どんどん素直な意見を言えるのだと感じた。
- ・ふせんに書くことによって言いづらいような意見もとても出しやすかった。
- ・自分の意見に共感してくれることがこんなに幸せなのだということは、はじめて感じました。
- ・今日は「友達の意見の大切さ」を実感した。一人だと考えられないことも、仲間がいたからできた。
- ・楽しくグループワークができるとチームワークも強くなるし、よい意見や斬新な意見も簡単に言えるようになることを体験し、話し合いの質が高まっていくことを実感した。
- ・普段は聞いていることが多い私ですが、今日はみんなと話し合いに参加することができて、話し合いをすることがとても楽しかった。
- ・とにかく楽しかった。私は、少し人見知りの部分があるので今日が憂鬱でしかたがなかった。しかし、はじめてみるとはじめからすごく楽しい。
- ・休み時間に大学生と話ができて本当に楽しかったです。自分の話も聞いてくれて、勉強はもちろんですが大学生との交流も貴重な時間でした。

ただ、これらの体験がその後の「総合的な学習（サッカー学）」での学びをより活発で充実したものにするヒントやきっかけになれば、今回の講座は2つ目のねらいにはつながらない。それについて、同校教員の方々への事後ヒアリング（2020年1月）で得た情報の一部を下記に紹介したい。

- ・明らかにグループワークの質は例年より向上したように思う。自分たちの意見を出し合いながらまとめていく能力の第一段階はクリアしたように感じている。
- ・今回の講座の中で「グループワークはこうしていこう」という意識の統一が図れたことが、系統的に指導していく中で大変意味があった。
- ・その後、何かにつけてグループでの話し合いを苦にしない集団となったように感じる。こう進めていけばよいということが学年全体で意思統一できたことが大きいと思う。
- ・本校の生徒はもちろんだが、大学生にとってもよい経験になってくれたらうれしい。ファシリテーションは経験がすべてだと私も感じている。このような経験を一緒にできたならお互いにとってメリットがあるような気がします。

なお、学生アシスタントへの評価にあたるものとしては、下記のようなご意見をいただいた。

- ・学生ファシリテータからの助言のタイミングは重要なポイント。生徒も教員も学べるが多かった。学生はそのポイントを意識しているのか、感覚として身につけてきているのか、指導してきた大学教員側としてその感覚をどのように指導しているのかを聞いてみたかった。
- ・学生アシスタントの活躍によって小野寺先生による会場中央でのファシリテーションがいい感じで各グループの中に入っていき、生徒がなにをすればいいのかよく理解できているようだった。
- ・大学生という、生徒たちの身近な先輩と一緒にグループワークに入ってくれることで、生徒にとってとてもいい刺激になった。

講座直後の学生アシスタントたちの感想のほとんどは「すごく楽しかった」であったが、彼ら・彼女らがファシリテーションの知識とスキルを現実の場で実践に活用する経験を一つ積み重ねることができたのは間違いない。ただ、それらを自らの力として定着させるためには、もっと沢山の経験と深い学びが必要であろう。今後とも、「フィールドワーク」の授業や地域での実践活動等により、彼ら・彼女らを含む地域創造学環の学生たちに、そのような場をできるだけ多く提供していきたい。

おわりに

授業エクステンションとしての高大連携活動を行うという取り組みは、高校側にとっては地元大学の教育資源を活用して自らの課題にアプローチできるとともに、大学教育の一端を垣間見ることができるというメリットがあり、大学側にとっては、学生が授業で得た知識やスキルを現実の実践の場で試し、そのことにより学びを深められるというメリットがある。また「地域に貢献する大学」としての広報上のメリットもあるだろう。

本報告が、授業エクステンションとしての高大連携活動が今後さらに広がっていくことの一助になれば幸いである。

参考文献

川妻篤史

- 2016 「学びと成長を見据えた高大接続・高大連携 : アクティブラーニングでつなぐ、つながる」
『京都大学高等教育研究』第22号 : 127-137.

釘山健一

- 2008 『「会議ファシリテーション」の基本がイチから身につく本』すばる舎.

中央教育審議会

- 2014 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」
(答申)(平成26年12月22日)

栃澤健史

- 2017 「高大連携授業におけるアクティブラーニングの実践 : 対話型教育へのオリエンテーションとして」『国際研究論叢』(大阪国際大学)第30巻3号 : 129-145.

増田敦, 須田心作

- 2014 「アクティブラーニングを考える(2)高大連携によるプログラム実践の成果と課題(その1)」『札幌大学総合論叢』第37号 : 43-70.